

巻頭言 疫学研究に関する倫理指針の施行と健康増進法の成立

大島 明

地域がん登録全国協議会理事長

かねてから本ニュースレターなどでお知らせしてきた「疫学研究に関する倫理指針」(以下「指針」という)が6月17日の官報に告示され、あわせて、同日付で大学の長や都道府県知事はじめ関係機関の長に対して、文部科学省研究振興局長と厚生労働省厚生科学課長の連名で、通知がなされました。「指針」の通知には、別添3として「疫学研究に関する倫理指針とがん登録事業の取扱いについて」という文書が付されています。この「指針」は既に7月1日から施行されています(これらの文書は厚生労働省の下記のホームページから見る事が出来ます。 <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>)

各地域がん登録室におかれましては、この「疫学研究に関する倫理指針とがん登録事業の取扱いについて」に沿って、必要な手続き、手順を進めてくださいますよう、お願いいたします。既にこれらの手続き、手順をクリアしている登録室も多いかと存じますが、このことにつきましては府県の担当者と改めてご確認ください。また、まだクリアしておられない場合には、クリアするべく作業を早急に進められますよう、お願いいたします。

皆様ご承知のとおり、がん対策を企画立案し、評価・モニタリングする上で、地域がん登録事業は必須の仕組みであります。がんの部位別パターンが大きく変化し、肺がんや肝がんのような難治がんであっても1次予防が可能ながんが増加しているにもかかわらず、わが国のがん対策が、1960年代はじめの胃がんと子宮頸がんががん死亡の約半数を占めていた頃の対策の延長線上である「早期発見・早期治療」至上主義からなかなか政策転換を図ろうとしなかったのは、地域がん登録からの実態把握・将来予測やがん対策の評価に関する情報発信が軽視されたことに、そのひとつの理由を見出すことができるのではないのでしょうか。

昨今の個人情報保護法制定への動きの中で、地域がん登録事業は本人の同意をとらないでデータを収集し、利用する疫学調査の典型例としてマスメディアでしばしばとりあげられ論じられてきました。しかし、このようなプライバシー権に対する関心の高まりの中においてこそ、地域が

賛助(寄付)団体(敬称略、順不同)

| | |
|-------------------|-----------------|
| (財)日本対がん協会 | (財)大阪対ガン協会 |
| 明治生命保険相互会社 | 日本生命保険相互会社 |
| 第一生命保険相互会社 | |
| アメリカンファミリー生命保険会社* | |
| (財)大同生命厚生事業団 | 総務省郵政企画管理局 |
| 三共株式会社 | アストラゼネカ株式会社 |
| 富士レビオ株式会社 | 日本ロシュ株式会社(関西) |
| 伏見製薬株式会社 | 大鵬薬品工業株式会社 |
| エーザイ株式会社 | 日本ワイズレダリー株式会社 |
| 堀井薬品工業株式会社 | 大塚製薬株式会社 |
| 塩野義製薬株式会社 | ノバルティスファーマ株式会社* |
| シュERING・プラウ株式会社 | 日本ロシュ株式会社(本社) |
| ファルマシア株式会社* | |
| 株式会社ウイツ | (*印は2口) |

ん登録事業の必要性に関して広く国民に理解を求め、プライバシー権と公益のバランスをどうとるかにに関して議論することが必要であると考えます。このような努力を通じてはじめて、国民の理解のもと、多くの先進諸国と同様に、地域がん登録事業を法的裏づけのある事業として整備し、地域がん登録からの精度の高い情報をがん予防対策の政策決定の基盤として位置づけ、さらに一層公衆衛生の向上に役立てることが出来ると信じています。

なお、7月26日に医療制度関連法の一環として国会を通過して成立した「健康増進法」の第16条では「国および地方公共団体は、がん、循環器病その他の生活習慣病の発生の状況の把握に努めなければならない」としています。さらに具体的には、国立がんセンターにがん予防・検診研究センター(仮称)を新設し、この情報部門の重要な機能のひとつとして記述疫学的データの収集・整理にあたる予定との情報にも接しています。ようやく国が、他の先進諸国と同様に、地域がん登録事業におけるその役割を果たすための第1歩を踏み出したものと大いに期待しています。

目次

| | | | |
|--------------|---|-------------|---|
| 巻頭言 | 1 | IACR 報告 | 4 |
| 賛助団体紹介 | 1 | 第11回総会研究会案内 | 5 |
| がん罹患調査 | 2 | 編集後記 | 6 |
| CONCORD 他 報告 | 3 | 関連学会一覧 | 6 |

おめでとうございます

- 平成 13 年度実務担当功労者表彰の報告 -

本協議会では、平成 13 年度から、地域がん登録の実務担当功労者表彰制度を創設し、各都道府県市の地域がん登録事業で、多年にわたり、事業の推進に篤志的に努力された実務担当の方を、協議会が表彰し、感謝状をお贈りすることになりました。

平成 13 年 9 月に大阪で開催された第 10 回総会で、第 1 回表彰式が行われました。次の各府県市の 10 人の方々に、大島理事長から、感謝状と記念品が贈呈されました。受賞者の皆様の今後の活躍を期待します。

(敬称略)

| | | | |
|------|-------|------|--------|
| 岩手県 | 戸来 安子 | 神奈川県 | 橋山 吉子 |
| 山形県 | 石應 洋 | 大阪府 | 中島 あさか |
| 千葉県 | 沢田 恵子 | 大阪府 | 中島 敬子 |
| 千葉県 | 中川 留美 | 広島市 | 山口 雅裕 |
| 神奈川県 | 北 弘子 | 長崎県 | 谷 彰子 |

全国協議会「平成 8 年がん罹患調査」報告

花井 彩 大島 明
地域がん登録全国協議会事務局

がん登録事業の報告書の刊行を促進し、統計の相互比較性を高めるために、本会では平成 9 年度から、各登録が年次報告書で公表された罹患数、率等を事務局で抜粋し、本会の事業報告書に報告してきた。平成 13 年度には、調査票に、各登録自身が平成 8 年の罹患成績を直接記入する方式を採用した。調査の結果は、平成 13 年度事業報告書に報告するが、以下に、その概要、問題点、次回調査の予定を述べる。

1. **概要**：(1) 昨年 12 月、報告実績をもつ 29 の登録室に調査票を送付し、26 登録から回答を得た。26 登録の総人口は 6660 万人で、**全国人口の 53% をカバー**していた。(2) 量的精度を示す死亡情報のみの者の割合 (DCO) は、**平均 27%**で、前年より 2% 改善された。なお、厚生省「地域がん登録」研究班が全国罹患数を推計した際に基礎としたデータの精度は、19% であった。(3) 25 登録 (全がんを登録) の合計罹患数は、男性 127,873 人、女性 93,447 人で、上記の研究班が推計した全国罹患数の、それぞれ 47% に相当した。また世界人口による年齢調整罹患率 (22 登録が算出) の算術平均値は、人口 10 万人あたり **男性 251.6、女性 155.6** で、共に全国推計値の 94% に相当した。(4) 3 位までの高率部位は、**男性では胃、肺、結腸、女性では、乳房、胃、結腸と子宮** (共に 3 位) で全国推計値とは同順であった。他方、肝、胆、膵、肺

新しい「地域がん登録」研究班の課題

津熊 秀明
大阪府立成人病センター調査部

厚生労働省がん研究助成金による「地域がん登録」(正式には“地域がん登録精度向上と活用に関する”)研究班を、本年度から担当させて頂くことになりました。本研究班は、大島班を引き継ぐもので、前班と同様、高い精度の地域がん登録に参加を求めて、(1) 信頼度の高いがん罹患率、患者の臨床進行度の分布、医療内容、生存率、有病率などの全国推計値を継続して整備するとともに、(2) 集積したがん罹患データを多様なニーズに対応出来るようデータベース化し、予防、医療、研究、行政の各分野における登録資料の利用を推進することを研究課題としています。とりわけ、1) 1975 年以降継続実施されてきた罹患率協同調査のデータを用いて、罹患率の地域特性や年次推移等につき詳細な分析を行うとともに、Age-period-cohort モデルを用いたがん罹患の将来推計を行うこと、さらに、2) 各参加登録室において取り組んできた登録患者の予後調査を継続・拡充し、わが国のがん患者の生存率を推計するとともに、生存率の地域格差とその要因を分析することを、重点課題としています。研究報告書を毎年作成し、また罹患数・率の全国推計値を WEB で公開する等、研究班の成果を広く公表し、がん登録事業の重要性をしっかりとアピールできるように全力を挙げる所存です。関係の皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

では、男女共に本調査による率の平均値の方が、全国推計値よりも大きかった。

2. **問題点**：今回の調査では、(1) 各都道府県市の登録対象が、浸潤がんのみであるのか、上皮内がんをも含むのか、(2) 両者を分離して集計できるのか、(3) 対象地域に在住する外国人は届出対象に含まれているのか、また対象地域人口に含められているのか等が、調査票の記入からは明確でない登録があった。また、(4) 増加しつつある大腸がんのうち、いわゆる m がんが、分離して集計が可能のようにコード化されているのかも明らかでなかった。

3. **平成 14 年度調査計画**：調査の時期を少し早めて、同じく自記式で、平成 9 年の罹患成績と、上に問題点として示した事項とを調査する予定である。御協力を戴いた各登録に御礼を申し上げると共に、次回調査にも御協力下さるようお願い致します。

CONCORD Study Investigators' Meeting
および NAACCR Annual Meeting に参加して津熊 秀明
大阪府立成人病センター調査部

本年6月8日にカナダ・トロントで CONCORD Study Investigators' Meeting が開催されました。本研究の中心者の1人 Michel Coleman 教授(ロンドン大学)からのお誘いを受け、大阪府がん登録を代表して研究会に参加する機会を得ました。本研究会は6月11-13日開催の North American Association of Central Cancer Registry (NAACCR “ネイサー”と発音) Annual Meeting のサテライト・プログラムとして実施された為、この会にも出席することが出来ました。ともに大変充実した内容で、大いに刺激を受けて帰って来ました。

CONCORD Study は、EU を中心に始まったヨーロッパ諸国の地域がん登録生存率国際協同研究 EURO CARE Study を源流とし、大西洋を横切るヨーロッパと北アメリカ(カナダ・アメリカ合衆国)との生存率に関する大規模な国際協同研究です。Coleman 教授のお誘いもあり、CONCORD Study には、日本から大阪府がん登録(味木和喜子)が、またオーストラリア(国家レベルでがん登録事業実施)が、オブザーバー参加しています。1985-89年診断患者の5年相対生存率を標準方式に則り算出した EURO CARE II Study から、ヨーロッパと北アメリカの、特に成人のがんの生存率に格差があることが示唆された為、CONCORD Study では、格差の実態とその要因を明らかにするべく、Phase 1(1990-94年診断患者についての標準方式による地域・国家間の5年相対生存率比較)、Phase 2(1997年診断の乳房、大腸、前立腺の各がん登録患者について標本抽出を行い、それらについて診療録に遡り、詳細情報、追跡情報を収集。3年生存率、再発率等について格差の有無・要因を分析する)、Phase 3(Phase 2で標本抽出したケースの病理標本を少数の専門家が独立して判定する)の各協同研究が展開されています。

今回の Meeting では、ヨーロッパ、アメリカ、カナダから、それぞれ16人、23人、9人、それに日本から私とオーストラリアから1人の計50人が参加し、研究の進捗状況を中心に報告と討議が行われました。Phase 1 study についてはヨーロッパの各登録からデータ収集が終了し、データ解析の事務局を務めるイタリアの研究グループから、EURO CARE-3として Preliminary な生存率成績の報告がありました。私共の報告を含め、ほぼ全部の抄録とスライドが WEB で公表されていますので是非ご参照下さい

(<http://www.lshtm.ac.uk/eph/ecph/concordinvestigatorsmtg.htm>)。2003年中に全研究結果を出すべく作業が進められています。なお6月11日夜に開催された CONCORD Study の運営委員会にも参加する機会を得ました。わが国の「地域がん登録」研究班で進められている生存率協同調査の概要と Preliminary な成績を発表しておりましたので、運営委員会では、大阪だけでなく高い登録精度と正確な予後調査を実施している山形と福井にも CONCORD Study にデータ提出出来ないかと提案され、受諾の方向で検討を進めることになりました。オーストラリアの参加も現実のものとなり、CONCORD Study の枠組みが今後大きく拡大される見込みです。

NAACCR は、北米におけるがん登録の標準化、実務者の教育・トレーニング、地域がん登録の精度の認証、データの集積と公表、登録データのがん制圧・疫学研究への活用、等を目指して1987年に設立されました。今回の年次学術集会には、アメリカ・カナダの全地域がん登録室、関連の政府機関、学術団体等から、数百人を超える参加があり、沢山の発表と活発な討議が行われました。サテライトで開催されたワークショップ、SEER*Stat、SEER*Prep 等の講習会を含めると、6月8日から15日までの8日間に及ぶ大規模な催しでした。NAACCR の現会長は Louisiana Tumor Registry の Director でありかつ Louisiana 州立大学の教授を務める Dr. Vivien Chen (中国系女性)ですが、2002年大会を主催したのは Cancer Care Ontario の Dr. Eric Holowaty でした。大会のメインテーマは「がん制圧における公平の達成」で、がん罹患リスクとがん制圧における社会的、地理的不平等に焦点を当て、解消に向けての方向性を探ろうとするものでした。メインプログラムのあった6月11日から13日の3日間に4つの全体集会(「健康における不平等」、「社会階層:理論と指標の計測」、「討論:合意の無い疫学研究は果たして重大な Privacy の侵害に当たるか」、「がん制圧における公平の達成」)と25の分科会、それに58のポスター発表があり、いずれも大変魅力的な話題を扱っていました。口演発表は殆ど全て PowerPoint による液晶プロジェクタを用いての発表で、Request に応じてファイルを提供してくれる演題も多くあり、私もいくつか送って頂きました。NAACCR の Homepage (<http://www.naacccr.org/>) には近日中に Dr. Chen らのオープニングの講演スライドをアップすることですので、是非ご参照下さい。

今回の参加を通して心に強く感じたことが2点ありました。1つは、北米、ヨーロッパ、オーストラリアでは

第 24 回国際がん登録学会 (IACR) 報告と
第 25 回会議のご案内井上 真奈美
愛知県がんセンター研究所疫学・予防部

第 24 回国際がん登録学会 (IACR) が、フィンランドのタンペレにおいて 2002 年 6 月 25-27 日に開催されました。タンペレはヘルシンキから 150 キロほど北に入ったフィンランド第 2 の都市で、工業都市と聞きましたが、緑が多く住みやすい印象を持ちました。海外の学生にも広く門戸を開いて教育を行っている Tampere School of Public Health もここに 있습니다。ちなみに、携帯電話で有名なノキア Nokia は地名で、タンペレの郊外にあります。

今回は ENCR (European Network of Cancer Registries) の会議もあわせて開催されたため、欧州の多数の国々から参加がありました。この会議に出席していつも認識させられるのは欧州国同士のネットワークの固さで、豪州も含め、彼らがん登録従事者の活動が国家を動かすという自信が、がん登録の遅れている国のレベルを引き上げ、国境にこだわっていても解決できない様々な問題解決が進行していくのだということを、今回は例年以上に感じました。しかし同時に、欧州の多くの国は我が国の都道府県並みの人口規模であり、その分運営もしやすいのだろうと、正直うらやましくも思っていました。開催地に足を運ぶまで、我が国からはどの位の参加者があるか前情報がありませんでしたが、ふたを開けて見ますと、17 名 (18 名?) という開催国フィンランドや英国に次ぐ多くの参加がありました。例年通り、テーマは、がん登録の精度管理からスクリーニング評価、がん登録を用いた記述疫学研究や分子疫学を含む分析疫学研究、そして

地域がん登録が国家プロジェクトとして定着しており、がん研究における診断や治療の進歩が、あまねく国民に行き渡っているか、また行き渡っていない場合、どこに問題があるのか、それらの課題・問題解決にがん登録従事者と保健衛生・行政関係者とが、がっちり手を組んで着実に仕事を進めていることでした。2 つ目は、わが国のがん登録従事者、研究者の層の薄さです。がん登録先進国での経験と研究成果を大いに吸収して、わが国のがん登録を発展させ得る若い人材の育成が緊急の課題です。疫学・生物統計等に関心のある若手研究者をがん登録先進国に派遣して、海外から多くのことを学んできて頂きたいものです。来年の NAACCR 学術集会はハワイ・ホノルル (6 月 8 - 14 日) で開催されます。若手の皆様、是非これにご参加下さい。

生存率解析など様々な内容でした。その中で印象に残ったのは、1986 年に起こったチェルノブイリ事故後の健康影響に関する評価で、不注意なマスメディアなどからの偽報を科学的証拠で払拭するのにいかに信頼できる研究や質の高い疾病登録などのインフラが必要かを訴える内容でした。地域がん登録の必要性を国レベルで認識するには、我が国の政府にまだまだ危機感がかけていると感じ、本当は政府の方にこれを聞いてほしいと思いました。

参加者の多かった我が国からは多数のポスターが掲示されましたが、研究班で近年強化されてきた影響か、生存予後に関する解析が目立ちました。全体にポスターのレベルが高くなり、我が国より経済的には裕福だと思えない国からの参加者もほとんど大きな一枚紙を用いて作成しており、小さな紙を「パッチワーク」しているのは日本と他の数カ国の参加者だけでした。それでも、我が国のポスターの質の高さが認められ(?)、大阪大学から 2 名もポスター入賞者がでて大変嬉しい結果となりました。もう来年からは「パッチワーク」では済まされない情勢になるのではないかと、我が国の貧しい研究者の一人としては危惧しているところです。

今回の会議は、フィンランド地域がん登録 (National) の 50 周年と重なり、クラシックの演奏と歌をバックに、アットホームな記念式典に立ち会うことができ、これもよい思い出となりました。ちなみに立ち上げから現在 3 代目の Dr. Hakulinen まで歴代 Director は全員ご健在でした。

さて、次回の第 25 回国際がん登録学会は 2003 年 6 月 16-20 日にハワイのホノルル (Runaissance Ilikai Waikiki Hotel) で開催されます。これは米国の NAACCR (North American Association of Central Cancer Registry) の会議と同時期に開催されるということで大きな大会となりそうです。我が国には珍しくお隣の国での開催ですので、多くの参加者を期待いたします。E Komo Mai!



研究会主題「保健予防活動と地域がん登録」

岸本 拓治

鳥取大学医学部 社会医学講座 環境予防医学分野

第11回地域がん登録全国協議会総会・研究会を米子コンベンションセンターで2002年9月13日(金)(午前9時より)に開催致します。「保健予防活動と地域がん登録」をテーマとし、がん予防における地域がん登録の役割と活用について討議したいと考えています。また、「最近の大腸がん増加とその背景」や「癌告知：死と医療の文化人類学」等の教育講演、「現場で役立つ禁煙指導」に関する特別講演なども企画しています。なお前日には、「地域がん登録における精度向上に関する問題点と工夫」に関して実務者研修会を開催致します。多数のご参加をお願い致したく、ご案内申し上げます。

開催日：総会研究会 2002年9月13日(金)

実務者研修会 2002年9月12日(木)

開催場所：米子コンベンションセンター・小ホール

参加・詳細のお問い合わせは、下記の第11回地域がん登録全国協議会総会研究会事務局へ

〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地

鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野(衛生学)

TEL：0859-34-8024 FAX：0859-34-8138

プログラム予定

9月12日(木) 実務者研修会

会場 米子コンベンションセンター・小ホール

14:30- 受付開始

15:00-17:30 「地域がん登録における精度向上に関する問題点と工夫」

話題提供

1. 地域がん登録の精度向上に関するアンケート調査結果
2. 鳥取県がん登録室の取り組み - 届出勤奨を中心に -
岡本 幹三(鳥取県健康対策協議会)
3. 地域がん登録の精度向上に関する問題点と工夫について
亀井 敏昭(山口県地域がん登録センター長)
4. 滋賀県がん登録の現状 - 届出精度向上へ向けての取り組みについて
小川 美佐子(滋賀県立成人病センター)
5. 届出率向上のために行ったこと
内藤 みち子(新潟県がん登録室)
6. 福井県のがん登録における精度向上に関する問題と工夫
服部 昌和(福井県立病院)
7. 長崎県がん登録における量的・質的精度向上の努力
早田 みどり(放射線影響研究所長崎研究所)

17:30-19:00 自由討論

9月13日(金) 総会研究会

会場 米子コンベンションセンター・小ホール

8:30- 受付開始

9:00-9:15 挨拶 祝辞

9:15-9:30 実務者研修会報告

早田 みどり(放射線影響研究所長崎研究所)

9:30-10:30 教育講演1

「最近の大腸がん増加とその背景」

富永 祐民(愛知県がんセンター)

10:30-11:30 教育講演2

「癌告知：死と医療の文化人類学」

波平 恵美子(お茶の水女子大学)

11:30-12:00 総会

12:00-13:00 昼食

13:00-14:00 特別講演

「現場で役立つ禁煙指導」

中村 正和(大阪府健康科学センター)

14:00-14:30 コーヒーブレイク

ポスター見学(小ホール・ロビー)

14:30-18:00 シンポジウム

「保健予防活動と地域がん登録」

1. 基調報告

岸本 拓治(鳥取大学医学部)

2. がん登録データが示すがん1次予防の課題

大島 明(大阪府立成人病センター)

3. HCV 検診とIFN 治療

周防 武昭(鳥取大学医学部)

4. 肺がん検診と治療への展望

清水 英治(鳥取大学医学部)

5. わが国のがん検診の現状と問題点

祖父江 友孝(国立がんセンター研究所)

6. がん登録と生存率 がん医療の進歩と生存率向上

津熊 秀明(大阪府立成人病センター)

7. 地域がん登録はがん予防につながるか

岡本 直幸(神奈川県立がんセンター)

18:00-18:05 閉会挨拶

18:30-20:00 懇親会(米子コンベンションセンター

IF レストラン「ル・ポルト」)

ポスター発表：米子コンベンションセンター2階小ホール手前ロビーにおいて各登録室から登録実務と疫学研究を中心に報告していただくことにします。昨年同様優秀なポスター発表に対しては表彰する予定です。

国立がんセンター がん登録実務者研修

1987年以來毎年2回、国立がんセンターで、「がん登録実務者研修」 地域がん登録コースと 院内がん登録コース（夏、冬各1週間）が、開かれています。厚生労働省医政局が主催し、コース開催を国立がんセンターに委嘱しています。受講料は無料、旅費および宿泊費は、原則として受講生の所属機関が負担します。受講希望者は、県保健福祉担当部（局）の担当課から県内医療機関に送付されている「がん診療に従事する医師、看護婦...

...がん登録実務者の研修実施要領（平成14年度）」をご覧になり、所定の様式（要領に含まれている）により、受講申し込みを県担当課へ提出します。県は厚労省へ推薦します。所定の様式では所属施設長の推薦文が必要です。次回地域がん登録コースは、平成15年1月27-31日に開催の予定で、県から厚労省への推薦締切日は平成14年10月末日、県での締め切りはこれより1週間ほど早くなります。受講を希望される方は、早めに勤務地の県保健福祉担当部（局）担当課にお問い合わせ下さい。

参考 平成13年度地域がん登録コースの内容

| 曜日 | 午前 | | | 午後 | | | |
|----|----------------|---------------|---------------------|-------------|--------------------------|---------------------|--------------------|
| | 開講式 | わが国のがん対策とがん登録 | 地域がん登録の目的と組織 | がん登録と個人情報保護 | 人体解剖学とICD-10, ICD-O-Tの構成 | 腫瘍病理学とICD-O-M(2)の構成 | 多重がんの定義と判定基準 |
| 火 | 消化器がんの診断と治療 | | 必要情報と情報源 | | 進行度分類 | 肝がんの診断と治療 | 中央登録室の作業と精度 |
| 水 | 地域がん登録の電算機システム | | 予後調査の実際、生存率の集計対象、計算 | | 部位及び病理組織のコーディング（実習） | | がんの化学・免疫・ホルモン療法の概要 |
| 木 | がん疫学入門 | | 統計学の基礎 | | 乳がんの診断と治療 | 白血病・悪性リンパ腫の基礎と臨床 | |
| 金 | 婦人科がんの診断と治療 | | がん登録資料の利用 | | 地域がん登録に関するQ&A | 肺がんの診断と治療 | 評価・反省会 終了式 |

編集後記

第11号のニュースレターをお届けします。巻頭言には、個人情報関係の最新的话题を大島先生にお願いいたしました。いよいよ、という印象を持っていますが、實はどちらに転ぶのでしょうか。国民の方々が、「地域がん登録」があることで安心して国の「がん対策」を支援してもらえるような状況になることが理想なのですが。津熊先生の“CONCORD Study Meeting と NAACCR Meeting”の参加ご報告を読ませていただきますと、日本とは全く異なった（数十年先を行く）論議がされていることに驚かされます。編集子も井上先生のご報告にありますように、第24回のIACR Meetingに参加してきまし

たが、日本からの参加者は多いのですが、報告の内容は北米、欧州と比べるとなく、韓国、台湾、中国の地域がん登録の急成長が目を見張るものがありました。IACRはもともと、故瀬木三雄先生（元東北大学教授）の音頭のもと組織化されたと聞いています。それなのに、わが国の地域がん登録を取り巻く状況を考えると、“灯台下暗し”なる諺が脳裏を掠め過ぎるのは編集子だけの病なのか？ 編集担当の井上先生が国立がんセンターへ異動されたため、今回は一人編集となりました。不備をお詫びいたします。次回からは、広島の小山先生に入ってください予定です。では米子で会いましょう。（岡本）

2002年 関連学会一覧

| | | |
|-----------|------------------------|-------------------|
| 9月13-14日 | 地域がん登録全国協議会総会研究会（第11回） | 米子市 米子コンベンションセンター |
| 10月1-3日 | 日本癌学会（第61回） | 東京都 東京国際フォーラム |
| 10月23-25日 | 日本公衆衛生学会（第61回） | さいたま市 大宮ソニックシティ |
| 1月24-25日 | 日本疫学会（第13回） | 福岡市 明治生命ホール |
| 1月27-31日 | 実務者研修「地域がん登録課程」 | 国立がんセンター |

発行 地域がん登録全国協議会 Japanese Association of Cancer Registries 理事長 大島 明
事務局 〒537-8511 大阪市東成区中道 1-3-3 大阪府立成人病センター内
TEL: 06-6972-1181 (2314), 06-6977-2030 (直) FAX: 06-6977-2030 (直), 06-6978-2821